

学校教育目標	「チャレンジ! なかよし! 進んで学ぶ 東の子」			
	○ 進んで学び続け、考えを深め豊かにする子どもを育てます。(知) ○ 自他の違いを認め合い、心豊かに生きる子どもを育てます。(徳) ○ 心も体も健康な生活を実践し、自他の生命を大切にすることを育てます(体) ○ 地域とのつながりを大切に、他者と協働して共に生きる子どもを育てます(公) ○ 持続可能な社会の実現に向けて行動し、多様な変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。(開)			
学校概要	創立 50 周年	学校長 小田 和宏	副校長 佐藤 万里子	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 384 人	主な関係校: 高田中学校、高田小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	高田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
言語能力 情報活用能力 問題発見・課題解決能力	高田中学校 高田小学校 高田東小学校	「豊かな表現力の育成を目指して」 ・「情報化社会を生きぬく能力を高めるための指導の実践」をサブテーマとして、情報教育を「情報活用能力育成モデル」により資質・能力で捉え直し、系統的に資質・能力を育成する実践をしていく。 ・小中の交流をすすめる、学校運営協議会を生かして地域や保護者とも連携して「あいさつ運動」や自分づくり教育をすすめる。 ・独自教科「たかた科」の創設 「社会を知る」「社会にかかわる」「自ら考え、行動する」子の育成を目指す。

中期取組目標	「子ども一人ひとりの個性や多様性を尊重し、つながりを大切に教育」を目指します。 ○ 子どもたちが、主体的に学習に取り組む授業づくりを進めます。 ○ 子どもたちが、安心して自分を表現できる学級風土づくりを進めます。 ○ 子どもたちが、安全に、健康の保持増進と体力向上を目指して学ぶ健康教育を進めます。 ○ 子どもたちが、持続可能な社会の実現に向かったり、自分の夢や目標に向かったりする取組を推進します。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①重点研究(体育科)で「進んでやる」「追求する」「思いを伝え合う」子どもの姿を目指すための手立てを教員一人ひとりが考えて実践し、蓄積する。研究を深め、他教科にも生かすことができる手立てについて共有していく。②学力学習状況調査の学習への意識の部分の結果を分析し、教員間で共有する。それを授業改善に生かすことができるようにし、学びに向かう力の涵養につなげる。
担当 学習指導部	
徳 人権教育	①引き続き、呼名のしかた、挨拶・返事・言葉遣い等を子どもに関わる全教職員で徹底する。また、お互いの個性を認め合い、自己有用感を高めるとともに相手気持ちに寄り添って話を聞く姿勢を育成する。②コロナ禍で制限をされていたようなベア学年の活動を教職員で精査しながら少しずつ再開していく。日々の学習においてベア学年を相手にした活動を計画的に取り入れるようにする。③子どもが主体的に活動に取り組むことができるように、委員会活動を充実させるとともに、計画的に代表委員会を実施し、充実した意見交換、話し合いを目指す。また、50周年記念式典へ向け、児童が自ら取り組む意欲をもてるよう指導、支援する。
担当 生活指導部	
体 健康教育	①一校一実践でのねらいや取組時期を見直し、「長縄集会」を年間を通した活動として位置付ける。②食に関する指導の充実を図り、生活習慣に対する児童の意識を高める。③けんこう会議の年間テーマについて、子ども達がより実感をもって取り組めるよう、児童会活動(委員会等)とも連携して、活動や成果が可視化できるような具体的な取組を進めていく。
担当 健康・安全部	
公開 自分づくり教育	①地域の教育力を生かし、地域社会と積極的にかかわる子の育成を目指す。国や市の自分づくり教育(キャリア教育)の指針と関連させながら、学習のイメージが共有できるような全体計画を作成する。②適切な時期に「自分づくりパスポート」で、子ども自身の自己評価や保護者との共有を図る。
担当 学習指導部	
いじめへの対応	①1月1回のアンケートで児童の人間関係の把握、学級風土の点検を行い、未然防止に努める。実施したアンケートで担任がどんな対応をしたか、トラブルは解消したのか、その後の様子が記録できるように、データ入力フォーマットを改訂する。②子どもが自分の経験と重ねて道徳的価値を自覚する道徳学習を進め、温かな学級風土づくりによっていじめの未然防止を図る。③生徒指導提要の改訂に伴い、教職員で内容の研修を実施するとともに、スタンダードの意図を明確にし見直しを行う。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修年間計画にメンバー同士で普段の授業や先輩教諭の示範授業を参観する時間を設定する。授業づくりや展開の工夫等より実践的な教科指導を身に付ける機会にする。②システムやソフトを積極活用し、事務作業や教材共有を効率的に進めるとともに、職員のスキルアップを図る。③教職員のキャリアステージに応じた校内外の研修を推進する。
担当 教務部・メンターチーム	
特別支援教育	①教科担任制を生かして、子どもの様子や見とりを学年、ブロック、専科の先生方と共有する。②子どもの学びの姿について適時保護者に示していく。そのために、これまで以上にチームとしての情報共有を積極的に行い、一人ひとりを支える支援の日常化を目指す。③個別の指導計画や教育支援計画を活用して個に応じた支援及び合理的配慮を行い、特別支援教室の充実を図る。
担当 特別支援・入級交流委員会	
地域学校協働活動	①地域コーディネーターと連携し、学習ボランティアの活用をより一層推進し、地域や中学校ブロックと連携・協働した取組の充実を図る。②学校運営協議会で「自分づくり教育」のねらいの理解を深める。合わせて、学習の様子等を具体的に発信し、学習をより深めていくための助言や人材を得る。
担当 教務部	
GIGAスクール構想	①ICT機器の整備・活用・情報発信方法・データの整理について学校内でルールを明確にした上で、学習支援や授業改善の場面で積極的に活用し、安心・安全な学びの充実を図る。②単元(本時)目標の達成や評価規準に迫れるような活用を計画的に進めていく。
担当 GIGA部	
教育環境整備	①定期的な校内の安全点検・設備状況調査について、関連部署と報告・連絡・相談を迅速に進め、教育環境の改善をより一層進めていく。②タブレット端末を含む教材・用具の現状、破損修繕、過不足への対応について、授業計画段階で安全管理マニュアルを積極活用し、安全・安心な運用を継続的に行う。③教育予算の執行計画を全体で共有し、優先する環境整備について共通理解を図る取組を継続する。
担当 学校管理部	